

現代政治の 이슈 (政治学現地研修・沖縄) 実施報告書

2026 年 7 月 9 日

川名 晋史

2026 年度の「現代政治の 이슈 (政治学現地研修・沖縄)」を、6 月 28 日から 7 月 1 日の 3 泊 4 日で実施しました。沖縄戦のワークショップから出発し、戦跡・祈念施設・米軍基地周辺・陸海の自衛隊・沖縄県庁、そして県議会へと、沖縄の平和の問題を考えるに相応しい場所を順にたどりました。学生 11 名・教員 3 名の計 14 名が参加しました。

<事前学習>

5 月から 6 月にかけて計 7 回の事前学習を行いました。オンライン・対面・オンデマンドを組み合わせ、沖縄戦と在沖米軍基地問題を中心に講義とビデオ学習を実施しました。最終回ではグループごとに研修の「問い」と訪問先への質問を確認し、現地に臨みました。

<現地研修行程>

6 月 28 日 (日曜日) ワークショップ

那覇市内にて、沖縄の大学生らとともに沖縄戦ワークショップ (2 時間) を実施しました。住民の戦争体験をロールプレイ形式で追体験するプログラムは、沖縄における地上戦を自身の直感や感覚として受け止め直す機会となりました。続く懇親会では積極的な質疑と意見交換が行われ、初日から議論が深まりました。



6 月 29 日 (月曜日) 平和祈念公園・嘉手納基地・砂辺地区

2 日目は沖縄南部の激戦地と米軍基地周辺をめぐるしました。午前には平和祈念資料館から始まり、平和の礎・慰霊碑・ガマを訪れ、沖縄戦の実相を現場から学びました。



午後は嘉手納基地周辺に移り、道の駅かでなから広大な基地の全景を目にしました。続いて訪れた砂辺地区では米軍人の住宅街を中心に見て回り、日米地位協定の問題が人々の生活のなかにあることを実感しました。



6月30日（火曜日） 陸自・海自・米軍基地研修

陸上自衛隊勝連分屯地と海上自衛隊沖縄基地隊（ホワイトビーチ）を訪問しました。陸自では南西防衛を担う部隊の任務と装備について、海自では水中処分隊の活動と掃海艇について、それぞれ現場の隊員から直接説明を受けました。午後は嘉数高台公園から普天間飛行場の全景を俯瞰し、基地と隣り合わせに続く市街地の様子を確認しました。



7月1日（水曜日） 県庁表敬・県議会傍聴

沖縄県庁知事公室を訪問し、辺野古新基地建設問題対策課の担当者から辺野古新基地建設問題と普天間飛行場返還問題についてレクチャーを受けました。その後、県議会を傍聴しました。前日の自衛隊研修との対比のなかで、学生たちはこの問題の行政的側面を自分なりに整理しようとしていました。昼食・自由時間の後、那覇空港を出発し全行程を終えました。



<事後学習>

研修終了後、参加学生は研修の振り返りとレポートを作成しています。

<総括>

今年度の行程は、沖縄戦の記憶・在日米軍基地・自衛隊の態勢・沖縄県の立場という複数の文脈を4日間で横断する構成を意識しました。研修後のアンケートには、訪問先が変わるたびに問いが更新されていく様子が記されていました。

・沖縄戦ワークショップについて

現在の沖縄の問題を県民の方の立場に立って考えることができたし、座学では知ることの出来ないリアルな声も聞くことができました。当事者がなぜそのような行動をしたのか、その背景など、教科書では学べない生の声に触れることができたように感じます。

・平和祈念公園・慰霊碑めぐりについて

ガマで米軍の投降を呼びかけるビラに近づく子どもたちに対し、日本兵が銃を向けて監視していたという事実を知った際には、戦争が人々の心や判断をも奪ってしまう恐ろしさを感じ、言葉を失いました。

・嘉手納・砂辺のフィールドワークについて

道の駅かでなで実際に感じた航空機の騒音や、基地が地域の中心に位置し大きな面積を占めている現状から、基地の存在が人々の生活にさまざまな影響を与えていることを実感しました。同時に、若者の基地問題に対する関心が時間とともに薄れてしまっていることなど、解決に向けて向き合うべき課題が多く残されており、簡単に答えを出せる問題ではないことも実感しました。

・陸自・海自研修について

想像していた以上に、（自衛隊の皆さんが）地域に貢献し、住民との関わりを大切にしていることが分かりました。防衛だけでなく、地域との信頼関係を築くことも大切にされていることを知り、自衛隊に対する見方が大きく変わりました。

沖縄における海上自衛隊の立ち位置は、日本国内や他国から見てもとても珍しい形だと思います。沖縄や政府、アメリカなどの多方面からの視線がある中で存在しているため板挟みにもなりやすく、日本だけでなく各国の協調・橋渡しの役割も担っているとも理解できました。

<4日間の行程全体を通じて感じたことを、ある学生はこう書いています。>

平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人々が安心して暮らし、それぞれの立場や考えを尊重しながら対話を重ねることで築かれていくものだ、この研修を通して感じました。沖縄で起きている出来事は、決して沖縄だけの問題ではなく、同じ国で暮らす私たち一人ひとりが向き合うべき問題であると、自分ごととしてより考えるようになりました。

現地研修をつうじて得た問いと問題意識を大切に、日本の平和と安全保障のありかたを考えつづけてもらいたいと願います。

引率にご尽力いただいた松本尚子先生、中根一貴先生に感謝申し上げます。